

## 努力事項 その5 (小学校)

「学校教育指導の重点」の図画工作の努力事項をひとつずつ考えていきます。今回は、学習指導要領の内容に照らして、以下について考えてみます。

児童一人一人が表現意欲を高め、自分らしい思いを一層ふくらませて活動できるように、その子なりのよさを自覚させたり自信を持たせたりするなど、個のよさを認め、支援に努めましょう。

1 これは、どういう意味なのでしょうか？

これは

- ・ 児童が自分なりの思いをもって発想し表現したことについて、
- ・ 教師は積極的によさを見付け、そのよさを児童に自覚させる。
- ・ 表現に自信を持ってない児童によいところを見付け励ます。

などして、児童が意欲と自信を持って表現活動に取り組むことができるようにしていきましょう、ということです。

児童は、心に思い描いたことを基に表したいことを発想し、それを材料や用具の特徴を生かしたり、様々な方法を組み合わせたりしながら創造的に表現しています。

教師は、発想の段階でのよさ、創造的に表しているよさ、また、積極的に取り組んでいるよさ等、様々なよさを積極的に探し見付け、それを児童に「このところの線や色がとてもいいね。」「奥行きを表そうとしているんだね。とてもよく表現されているよ。」などと話しかけ、よさを自覚させていきましょう。

また、表したいことを見付けることができても、自分の思い通りの表現ができず自信を持ってない児童も少なからずいると思われます。このようなときは、児童に「思い通りにならないみたいだね。でも、この色はこの人物の感情を表していると思うし、前後関係がしっかり表されていてとてもいいと思うよ。」などと励まし、「よし、あきらめずにがんばってみよう。」というやる気と「僕にもできるはずだ。」という自信をもって表現活動に取り組めるようにしていきましょう。

そうすることによって、「がんばって表現してみたい!」という意欲が高まり、模倣ではない、自分なりの発想や構想に自信を持って表すことができるようになります。

次回は、中学校の努力事項「主題の発想から作品の完成までのそれぞれの過程で、一人一人の構想や表現のよさを認め励ましながら多様な方法で評価しましょう。」について考えてみます。

8月2日（金）頃アップの予定です。

